

東日本大震災 沖縄民医連 支援ニュース

第11号 2011年3月30日(水) 電話:098-833-3397

避難所では、まだ朝・昼「パン1個」のところも **第4陣報告**



＜沖縄民医連支援隊ブログ：室岡美和子(協同にじくり)さんより＞

仙台市宮城野区の岡田小学校にある避難所に、大阪から来た看護師とふたりで 24 時間常駐の勤務が始まりました。

海岸沿いに松林がある地域ですが、津波の被害をもろにかぶった地域で、かろうじて残った小学校が避難所になっています。400 人がいて、朝と昼ごはんはともにジャムパン1個と、ヤクルト。夕ごはんは、自衛隊の炊き出しのうどんが配給されました。

4月から小学校を再開するらしく、400 人がすべて体育館で生活しています。

今日、体育館の周りを被災者と廻りました。

想像を絶する光景を目の当たりにしました。水田地帯が広がっていますが、まだそのぬかるみに遺体があるんじゃないかと言っていました。

仙台市の病院から出張診療で医師が来てくれて、診療しています。

主な訴えは、上気道炎。壊れた自宅を片付けに行つてケガをして帰ってくる方も多いです。

段ボールの上に毛布を敷き毛布2枚で寝返りさえままならない環境で皆さん、寝ています。風邪が治らないのも当然かもしれません。皆さん、優しいです。わざわざ遠い沖縄から来てくれたと涙を流される方も。

県医師会と懇談、要請

29日、県連を代表して、仲程正哲沖協院長、内間事務局長、上原次長が県医師会を訪ね、大震災救援のとりくみ問題で「懇談と要請」を行いました。未曾有の被災・被害の支援に日本医師会ははじめ、全国のあらゆる医療団体が力をあわせてとりくむことの大切さを共有しあいました。

県医師会の大震災救援を担当されている上原次長、渡嘉敷課長が快く対応されました。

仲程院長から、3月24日付で各県医師会長あてに発せられている日本医師会・原中勝征会長の「日本医師会災害医療チーム(JMAT)派遣の登録を医師会以外で支援派遣しているところにもよびかけていただきたい」との積極的な提案を歓迎し、連携して支援を強化したいと、思いを率直にお伝えしました。上原次長、渡嘉敷課長とも「よく理解しています、しっかり検討します」と回答されました。

職員の「救援募金」—29日現在、2.303.704 円！